

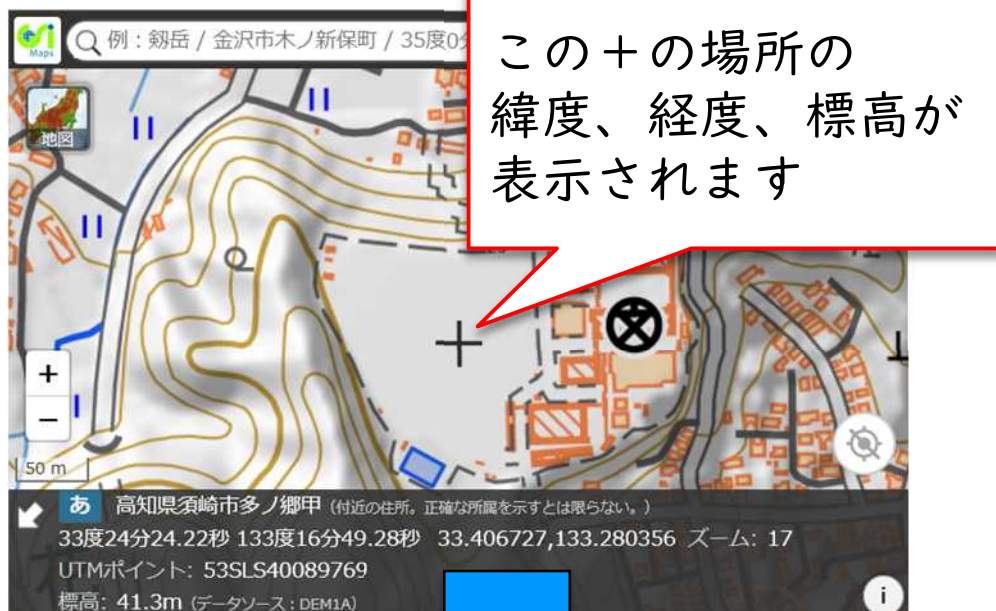
測量・地図学習会
地理院地図体験講座
～ 電子基準点と自然災害伝承碑を通して ～

令和8年6月

国土地理院 四国地方測量部

- 地理院地図
- 電子基準点
- 自然災害伝承碑

自宅の緯度、経度、標高を調べましょう



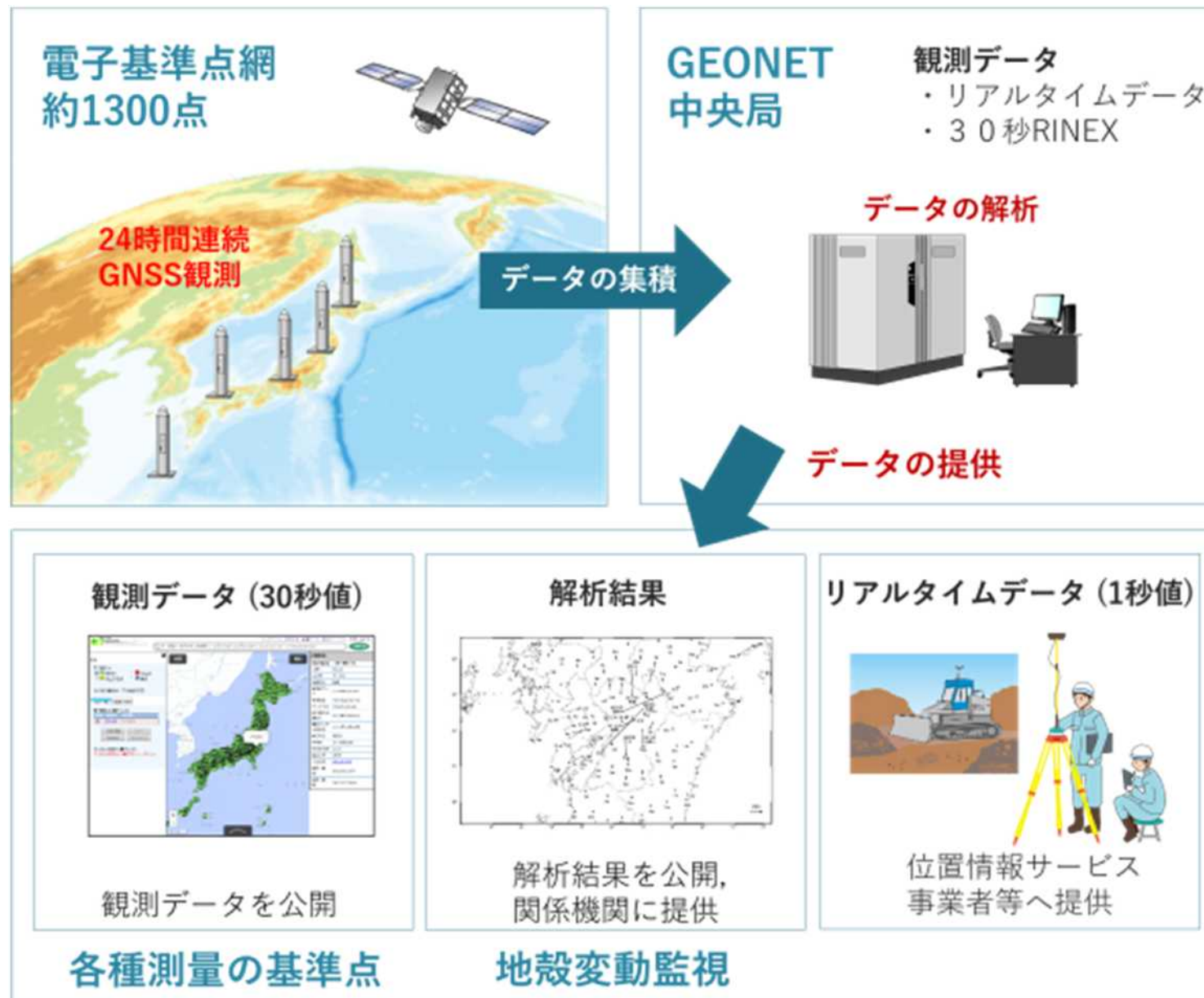
緯度（度単位）
33.406727 の場合
ワークシートには、
小数点以下第2位までを記入
33.41

あ 高知県須崎市多ノ郷甲 (付近の住所。正確な住所を示すとは限らない。)
33度24分24.22秒 133度16分49.28秒 33.406727, 133.280356
UTMポイント: 53SL S40089769

標高（度単位）
41.3m の場合
ワークシートには、
小数点以下第1位までを記入
41.3

経度（度単位）
133.280356 の場合
ワークシートには、
小数点以下第2位までを記入
133.28

我が国の位置の基準





平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

平成30年7月豪雨により発生した土砂災害で多くの犠牲者が出た広島県坂町では、100年以上前の大水害の被災状況を伝える石碑が現地に建立されていたものの、地域住民にその内容が十分に伝承されていませんでした。

このような経験から、**過去の自然災害の教訓を適切に伝承**するとともに、**教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減**をめざし、国土地理院で情報の整備と公開を開始しました。



写真提供：大阪府警察

【水害碑（広島県坂町）の伝承内容】

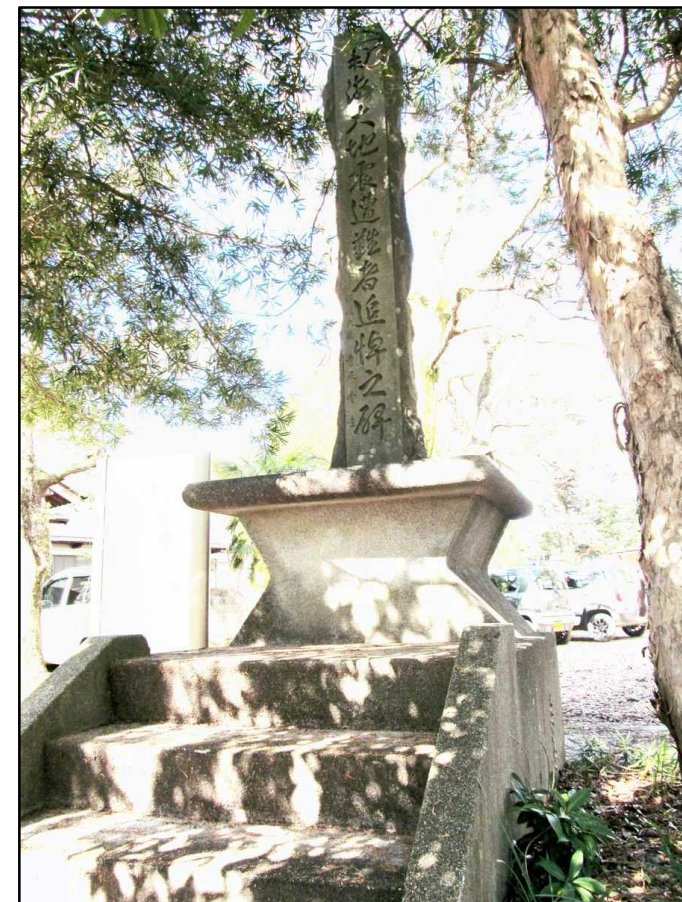
明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

平成30年7月豪雨当時、避難勧告を受けた小屋浦地区の住民の避難率は、坂町全体の半分程度にとどまっていた。

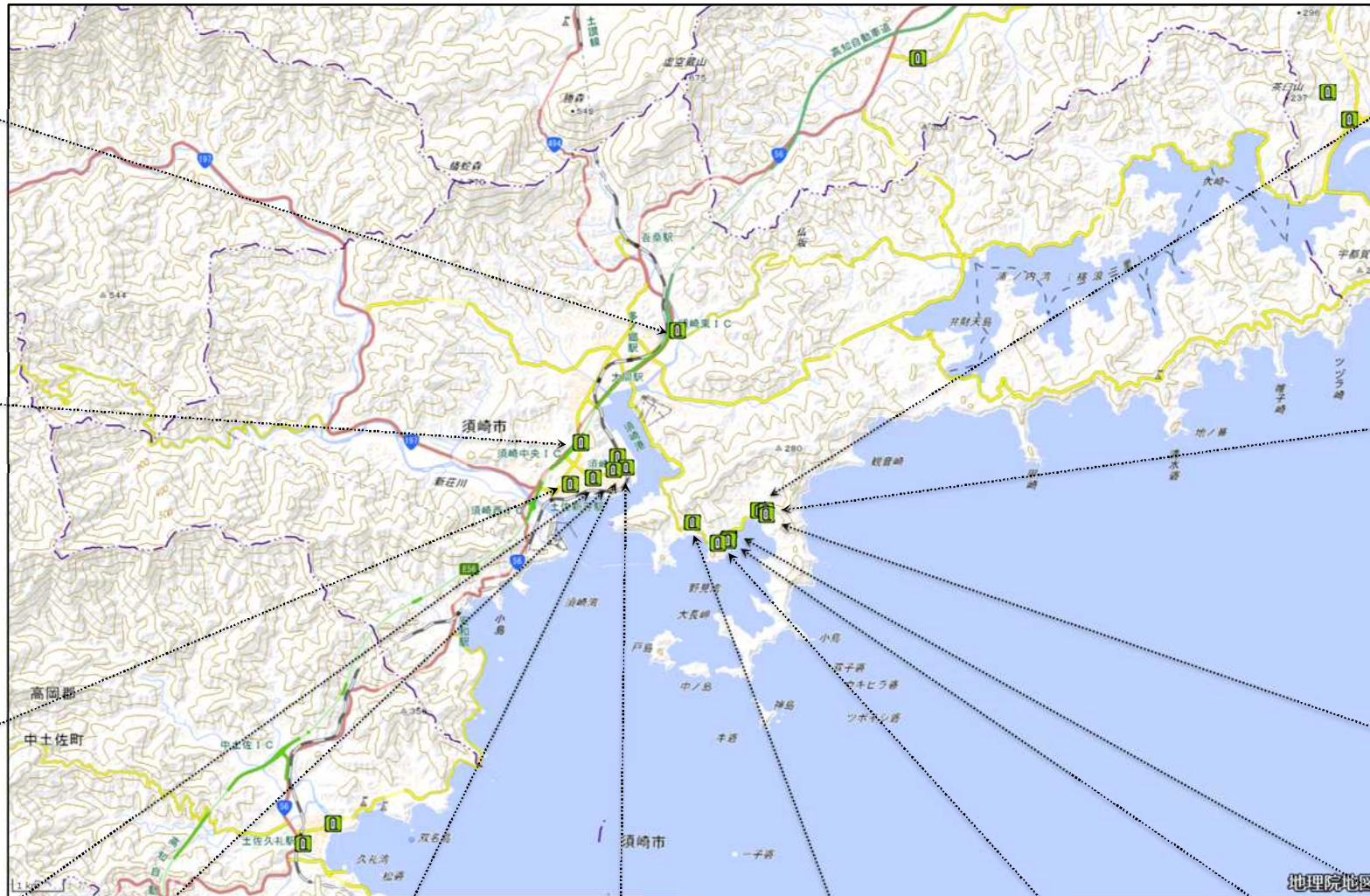
自然災害伝承碑



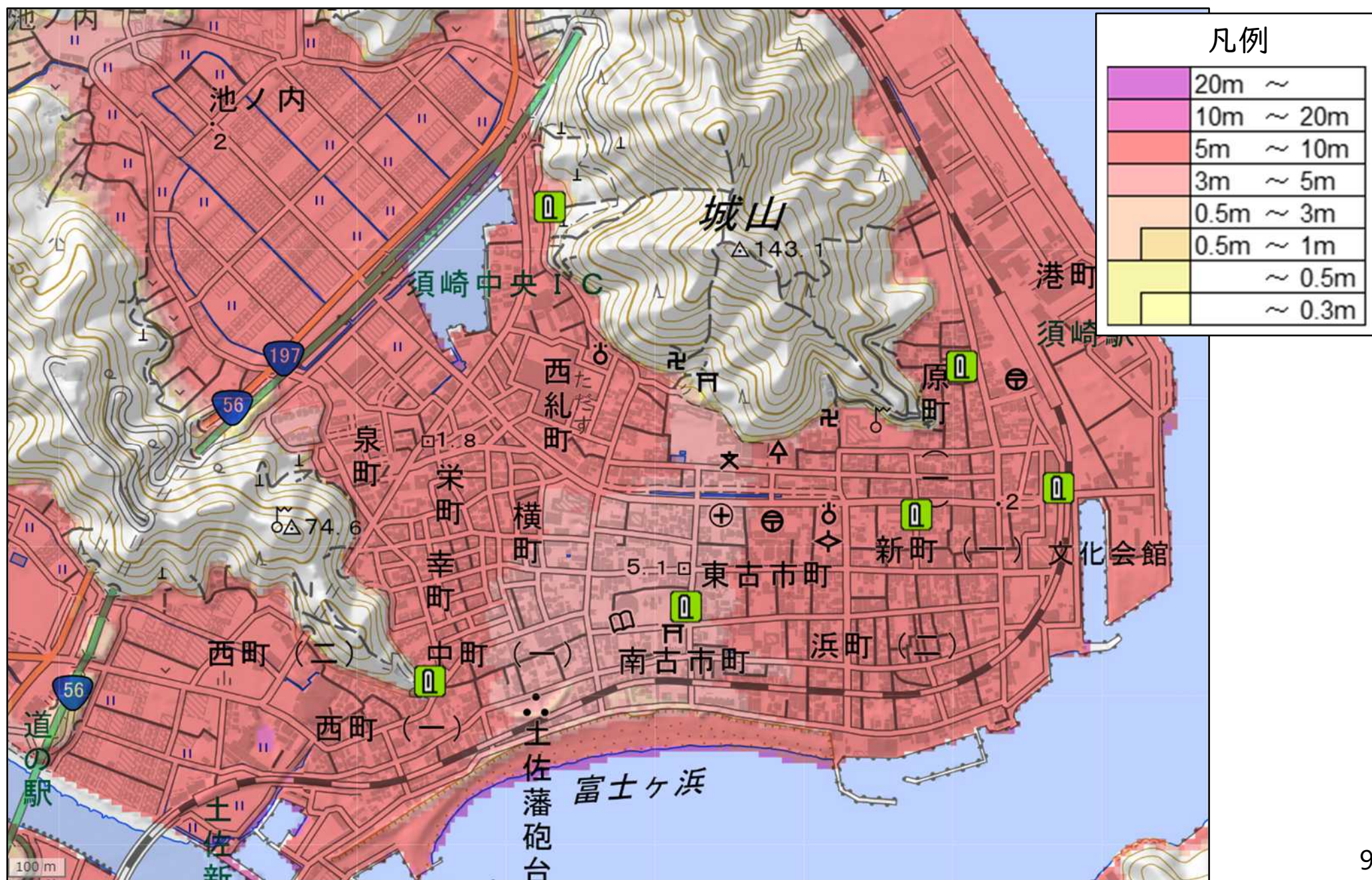
概要	
碑名	南海大地震遭難者追悼之碑
災害名	昭和南海地震 (1946年12月21日)
災害種別	地震・津波
建立年	1959
所在地	高知県須崎市西古市町
伝承内容	昭和南海地震(1946)では 大小6回最高4.6mに及ぶ 津波が来襲した。新荘川 沿いに坂ノ川、東は大 間・押岡・土崎付近まで 浸水し、原町付近は引き 潮で製材貯木場の巨材が 氾濫、全壊140戸、半壊 300戸、浸水1,000戸、死 者60余名などの被害が生 じた。津波は海側から押し 寄せるとは限らず、北 に逃げた人が多ノ郷から の波にのまれた。入り江 や川沿いは危険、古市や 中町など標高が高い地区 は浸水しなかった。天災 は忘れた頃にやってくる。



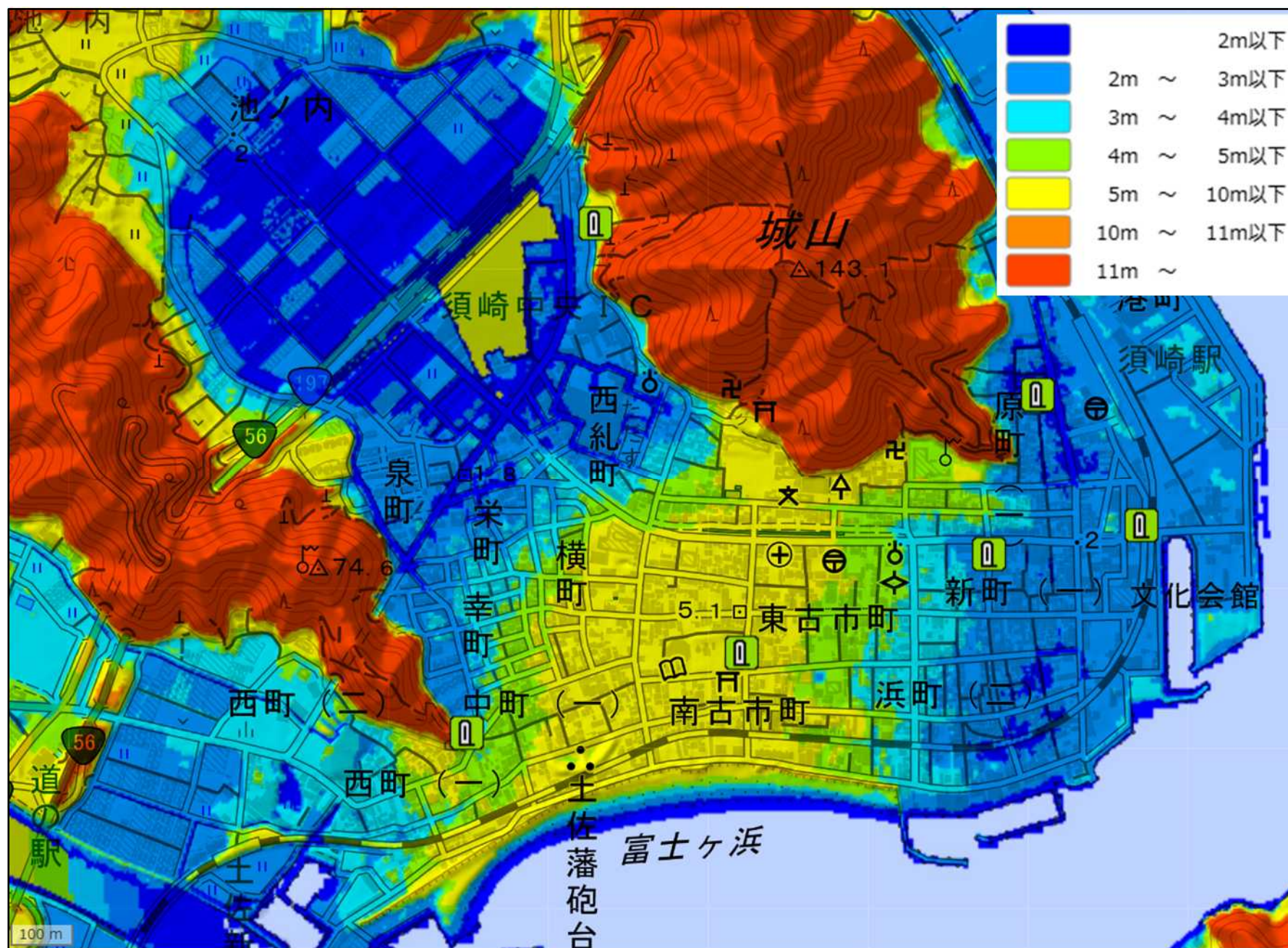
須崎市内の自然災害伝承碑



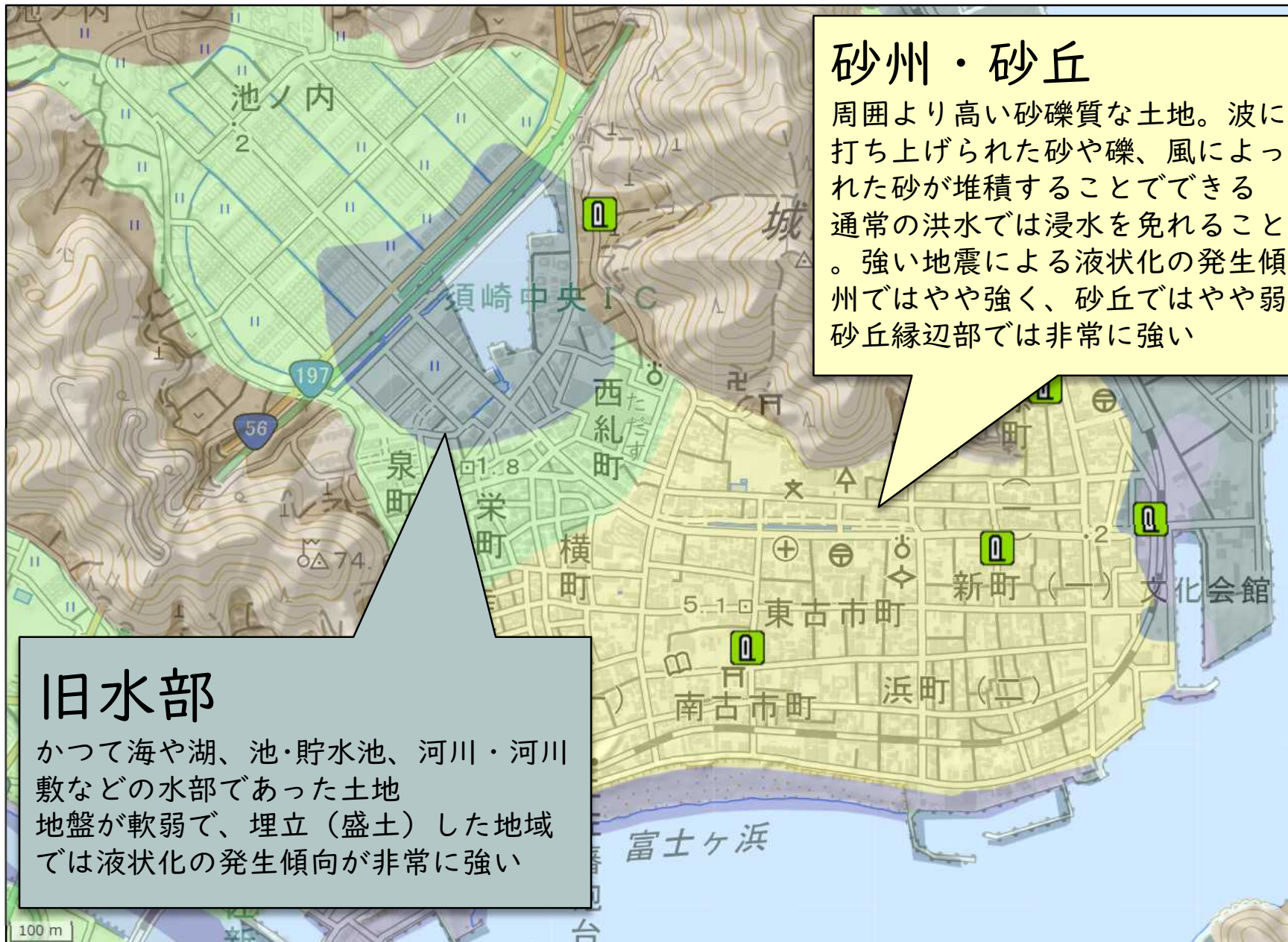
津波浸水想定 浸水が想定される区域と水深



自分で作る色別標高図



地形分類(土地の成り立ち、自然災害リスク)



砂州・砂丘

周囲より高い砂礫質な土地。波によって打ち上げられた砂や礫、風によって運ばれた砂が堆積することのできる
通常の洪水では浸水を免れることが多い。強い地震による液状化の発生傾向は砂州ではやや強く、砂丘ではやや弱い、砂丘縁辺部では非常に強い

旧水部

かつて海や湖、池・貯水池、河川・河川敷などの水部であった土地
地盤が軟弱で、埋立（盛土）した地域では液状化の発生傾向が非常に強い

現在の地図



1911（明治44）年の地図



測量・地図学習会 地理院地図体験講座 ～ 電子基準点と自然災害伝承碑を通して ～

- 地理院地図 … 国土の様子を発信するウェブ地図
- 電子基準点 … 我が国の位置の基準
- 自然災害伝承碑 …

